

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題・副題

**生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～**

2 研究の視点

- (1) 運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる学習指導過程の工夫
- (2) 表現力等を高めることができる学習指導過程の工夫
- (3) 体力の向上を図るための体育科学習を含めた教育活動の在り方

3 研究の内容

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 指導方法の工夫についてア 主体的・対話的で深い学びについてイ 新学習指導要領に即した単元計画の作成ウ 体づくり運動の考え方の整理 | <ol style="list-style-type: none">(2) 学習資料の工夫ア ワークシートの工夫・活用イ 体づくり運動領域の運動例集の活用ウ 保健指導に関する資料の情報収集 |
|---|---|

4 研究の組織

- (1) 授業研究班・・・体づくり運動（学体研全体会）・体づくり運動（学体研小学校部会）
保健（学体研小学校部会）
- (2) 単元計画作成班（学体研開催年にあたり、総務班、交通輸送班、研究運営・会場班で分担）

| 研究班 | 具体的な取組 |
|--------|-----------------------------------|
| 器械運動班 | マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動の単元計画作成 |
| 陸上運動班 | 短距離走・リレー、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳びの単元計画作成 |
| 水泳運動班 | クロール、平泳ぎ、安全確保につながる運動の単元計画作成 |
| ボール運動班 | ゴール型、ネット型、ベースボール型の単元計画の作成 |
| 表現運動班 | 表現、フォークダンスの単元計画の作成 |

※各領域ともに1・2年生の「運動遊び」や3・4年の内容を含む

5 研究の実際

- (1) 指導方法の工夫について
- ア 主体的・対話的で深い学びについて
学習指導要領に記載されているように、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は相互に関連が図られることが大切であるが、それぞれの視点を明確にするべく、本研究では次のように定義づけを行い、共通理解を行った。
- イ 新学習指導要領に即した単元計画の作成
来年度より完全実施される新学習指導要領への理解を深めるため、2カ年に渡って新学習指導要領に即した単元計画を作成した。6カ年の学習指導内容を明確にするために、全学年・全領域の単元計画を作成することとした。この際、指導内容の重複が起らないよう領域ごとに班編成を行い、各領域の学年部ごとに作業を進め、最終的に、全学年・全領域の単元計画作成を行った。
- ウ 体づくり運動の考え方の整理
多くの先生方が、体づくり運動を行う際に「3・4年生と5・6年生の違いが分かりにくい」、「どのような違いがある運動なのか分からない」と言った声を聞くことがあったため、宮崎市小体連として、その違いを明確にした。
- (2) 学習資料の工夫
- ア ワークシートの工夫・活用
体づくり運動の単元内で取り扱う運動の種類は、多くの場合1つの運動を継続的に取り扱うので

はなく、複数の運動を取り扱うことが多い。運動を行う際に自分がどのような点を意識して運動していたのか、児童が把握しやすいようにしたいと考えた。加えて、短い時間で視覚的に捉えられるようにするために、レーダーチャートを作成した(図1)。なお、チャート内の評価項目については、主として取り扱う学習内容によって変更するなどして活用することとした。また、本時の運動で高まった体力やその方法、工夫した運動方法等を記入できる自由記述欄を設けた。

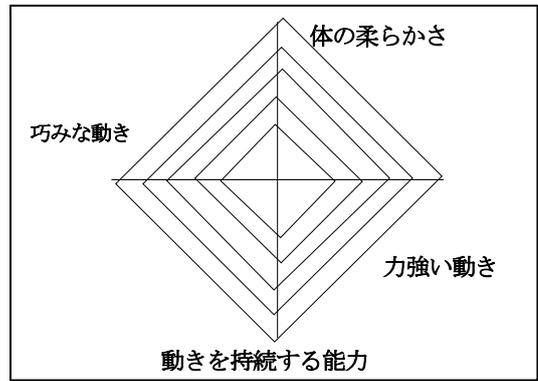


図1

イ 体づくり運動領域の運動例集の活用

宮崎県学校体育研究会が作成した「体づくり運動事例集」から、小学校の授業に適した運動事例を抜粋し、児童に提示しながら授業を進めるようにした。この事例集には、動き方を示した写真や図とともに、その方法や注意点、効果が書かれている。児童が運動を行う際に提示することで、運動の仕方を分かりやすくした。

ウ 保健指導に関する資料の情報収集

養護教諭部会と連携を図り、2カ年をかけてそれぞれの学校にある保健指導資料をまとめた。その際、学校名・教材名・資料の形式(本・VTR・掲示資料等)を記載することで、必要な資料を素早く見つけられるようにした。また、これらの情報を宮崎市小学校体育連盟のホームページ上に載せ、体育主任だけでなく市内の先生方に活用できるようにした。

6 研究の成果と課題

(1) 成果

- 「主体的・対話的で深い学び」について、それぞれの内容を確認するとともに、深い学びを促す単元計画や学習指導過程の工夫等を行うことで、児童が意欲的に運動に取り組むことができる「体づくり運動」の授業を構築することができた。
- 多くの先生が利用できるよう新指導要領に合わせた単元計画を作成することができた。
- 2学年の目標が書かれている体づくり運動の目標だが、5年生と6年生の指導内容を明確にすることで系統性をもった指導を行うことができるようになった。
- レーダーチャート等を工夫したワークシートを使用することで、児童が考えをまとめやすくなり、教師が児童の考えなどを理解したりすることが容易になった。
- 実践事例集等を活用することは、児童が運動に取り組みやすくなることにつながった。また、運動する際の留意点が書かれており、指導する教師にとっても運動を見る視点として指導に役立てることができた。

(2) 課題

- 全ての学年での単元計画を作成することができたが、評価計画まで記載することができなかった。今後、評価についても検討しながら改善していく必要がある。また、この単元計画を基に実践を重ね、よりよい単元計画にしていく必要がある。
- 特に、高学年の体づくり運動について研究や実践を重ねており、それぞれに成果や課題が挙げられるが、低学年や中学年の体づくり運動についての研究・実践が少ない。今後これらの研究・実践を深めていく必要がある。